

【参考1 セット検査の留意点と目安となる項目事例】

1. 再入院患者に対する取り扱い留意点

- 1) 前回退院日から1年以内の再入院時における血液型検査は重複とみなされる。
- 2) 前回退院日から6カ月以内の再入院時における、梅毒脂質抗原使用検査・HBs抗原・HCV抗体は、重複とみなされる。

セット検査の目安（事例）				
検査項目	検査名	入院時	手術前	内視鏡前
尿	尿中一般、沈渣（染色を除く）	○	○	×
便	潜血反応、虫卵、ヘモグロビン	○	○	×
血液	末梢血一般、血液像	○	○	×
生化学（I）	D007-1～6	○	○	×
肝炎ウイルス	HBs 抗原	○	○ 精密検査も可	○ 精密検査も可
	HCV 抗体	○	○	○
免疫学的検査	血液型検査	○ 輸血病態に限る	○ 輸血病態に限る	×
	CRP	○	○	×
感染症血清反応	梅毒脂質抗原使用検査 TPHA	○	○	○
循環機能検査	心電図	○	○	×
画像診断	胸部X線	○	○	×

【参考2 検査の審査対応チェック内規事例】

1. 検査の必要性和段階的实施について

- 検査は自覚症状・多角所見から必要性が明確な場合に段階を踏んで行っているか。
- 項目・回数は治療に的確に反映される範囲のものであるか。
- 必要性の乏しいもの、セット検査、回数 of 過剰、重複実施に注意しているか。
- 算定要件を満たさない腫瘍マーカーなどを算定していないか。
- セット検査項目は必要最小限度のものにしているか。
- セット検査項目は定期的に見直しているか。
- 初診時等に必要があつて精密検査を実施する場合、その必要性等をレセプトに症状詳記しているか。
- 必要があつて標準的な実施回数を超えた検査を実施する場合、その必要性等をレセプトに症状詳記しているか。

2. 画一的な検査と見なされないために

- 尿中一般物質定性半定量検査を尿沈査顕微鏡検査と連動して画一的に同時実施していないか。
- 心電図検査を連月画一的に施行していないか。
- 超音波検査を、脂質異常症患者に脂肪肝診断目的で画一的に実施していないか。
- 超音波検査を、糖尿病・高血圧患者に頸動脈超音波検査として画一的に実施していないか。
- FT3、FT4、TSH 精密、サイログロブリンが段階を踏まず実施されていないか。
- CEA、AFP、PSA、CA19-9 等実施する場合は単独病名のみならず複数の病名を付けているか。
- 血液生化学検査を 16～17 項目など一律的に実施していないか。

注) 本稿は連載開始月より実際に査定された事例やその対応策を記載しておりますが、すべての都道府県で同一にかつ画一的に採用されるものではありませんのでご留意ください。